

2020
11・9
毎週月曜
第5週除く
フェア特大号 第1172号

週刊ビル経営

発行所 (株)ビル経営研究所 〒104-0061 東京都中央区銀座7-17-12 2F TEL 03(3543)7421 FAX 03(3543)5839
 発行人 垂澤清三 年間購読料 30,000円(税込)

編集後記 1年に1度の不動産業界の総合展示会「不動産ソリューションフェア」が今週11日(水曜日)から、東京ビッグサイト西1ホールで開催する。今年は新型コロナの問題もあり、展示会やセミナーといった情報を得る機会が失われた。変化に対応するための情報が得にくくなった。「不動産ソリューションフェア」はそんな状況のなかでも、感染対策を実施して開催する。ビルオーナーをはじめとした不動産業界人が貴重な、生の情報を得る場になる、と自信を持っている。活字だけでは得られない情報もあるだろう。さあ、新聞を胸に抱えて東京ビッグサイトへ。(萩原)

**不動産業界
ニュースサイト
「ビルモール」は
毎週月曜日更新**



オフィスニーズの変化を先読み 大手が未着手のスキマに挑戦

**「アフターコロナ見据えた」
シェアオフィス最新動向**

パンデミックはこれまでのワークスタイル・ライフスタイルを考え直す機会となった。不動産業界もウィズコロナ期、そしてアフターコロナに向けて、これまでの戦略の転換を含めた、新しい一手が必要不可欠となっている。そのなかで、11月に新しいシェアオフィス・コワーキングスペースが2つオープンする。大手不動産デベロッパーも展開し競争が激化するなかで、これまでになかったアイデアでシェア拡大を狙う。

コロナ禍のオフィス新様式 「アート×シェアオフィス」

4階地下1階でもともとはある企業が本社ビルとして利用していた。移転することを機に、コロナのなかでビルが空になった。新しい貸し方を模索にサンフロントティア不動産が購入して、今回のプロジェクトを立ち上げるに至った。

今年6月より曜日で借りられるシェアオフィスサービス「WEEK」(6~12席)のシェアオフィスを構成されてきたサンフロントティア不動産(東京都千代田区)は「WEEK」として、リアの一棟ビルで新しい一手を打つ。

「A四谷」に続く案件も



サンフロントティア不動産
執行役員アセットマネジメント本部
リブランディング事業部長兼取締役責任者
小田修平氏

「A四谷」は当社が出す場へのニーズが高まっています。今回「A四谷」は新しいタイプのシェアオフィス「アート×オフィス」をはじめ、曜日

在り方が議論されています。単なる執務空間でなく、クリエイティブを生み出す場へ進んでおり、今後も高まっています。今「A四谷」は新しいタイプのシェアオフィス「アート×オフィス」を



▲11月9日にオープンした「A四谷」



▲1階ラウンジではコーヒーを楽しみながら交流できるラウンジも



▲国内でも珍しい「アート×オフィス」の取り組みを進める場に

「A四谷」の最大の特長となるのは「アート」だ。各部屋の壁一面にそれぞれ異なるアートが描かれた。参加したのは、日本のトリートメントシーンで活躍する10名のアーティストだ。また仕事に欠かせないコピーにもこだわっており、同オフィス入居者には、バリストによりBrooklyn Roasting Company(米国・ニューヨーク、以下ブルックリン)の淹

創造的ビジネスやインベーションが広がる。なぜオフィスで「アート」に注目したのか。オープン後、どの

今回のプロジェクトを主導した執行役員の小田修平氏は「日本ではオフィスでのアートというのは珍しいですが、米国ではアートがあることが刺激となりイノベーションにつながると考えられています」と指摘する。その好例がGAF Aだ。オフィス内にアートをちりばめることで、自由な発想や創造性につながり、世界的なプロダクトの開発につながっている。日本でもベンチャーやスタートアップ企業をはじめとして、これまでにないサービスの開発に取り組みケースは多い。そのような企業の中には米国の先進事例を参考に、アートの重要性を理解していることも多い。

よくな場所として成長していか注目される。